

直播栽培導入による低コスト稲作技術の確立

要約

「なすひかり」による直播栽培は地域平均並の収量が得られ、労働時間の短縮及び作期分散が可能であった。令和3年産米概算金による所得は対照区より低くなるが、10aあたりの労働時間が3時間軽減され、規模拡大に有効である。

○ 展示のねらい

土地利用型経営体の収益性向上のため、直播栽培における安定多収栽培技術を確立する。

表1 試験区の概要

試験区	区分	品種名	播種(移植)日	主な耕種概要等
供試区	湛水直播区 (全量基肥)	なすひかり	4月27日	播種量4.0kg/10aを点播 50株/坪、窒素5.9kg/10a、堆肥1t/10a 播種同時施肥、除草剤散布
対照区	移植区 (全量基肥)	コシヒカリ	5月3日	播種量180g/箱(乾籾) 50株/坪、窒素4.5kg/10a、堆肥1t/10a 田植同時施肥、除草剤散布

○ 主な成果

- ・ 供試区は、播種後の芽出し期間を十分にとることで安定した苗立ちを得られた。このため穂数を十分に確保できたことから、坪刈収量は対照区比107%の569kg/10aと令和3年産さくら市の平均収量(573kg/10a)並となった。
- ・ 供試区は4月27日播種(対照区:5月3日移植)で、対照区より出穂期が11日、成熟期が19日遅くなるため、繁忙期である移植・収穫作業の分散ができた。
- ・ 供試区の所得は、生産物価格差のため対照区より1,869円低くなったが、供試区は10aあたりの労働時間が3時間少なく、家族労働費を加算すると純収益は対照区を上回った。
- ・ 湛水直播による作期分散と労働時間が減少するので規模拡大が可能となった。

表2 生育期、生育形態、雑草・病虫害発生程度

試験区	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 (本/㎡)	1株当り 穂数	倒伏 程度	雑草発生 程度	病虫害 発生程度
供試区	8月5日	9月28日	79.9	18.3	820.8	17.1	0	少	ツマグロヨコバイ 2
対照区	7月25日	9月9日	95.3	19.5	430.9	26.6	0	微	穂いもち 1

表3 収量、品質

試験区	千粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)	
		精玄米重	屑米重
供試区	22.3	569	27
対照区	22.0	531	48

表4 経営評価

試験区\科目	生産原価 (/kg)	収入金額 生産費用 所得 (/10a)		
		供試区	153	75,893
対照区	167	79,665	88,769	13,338

○ 今後の方向性

作期分散や経済性等のメリットを周知し、普及を図る。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：さくら市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315